

シジュウカラ Parus major(四十雀)



(撮影：山上)

識別のポイント

- ・胸から腹にかけて黒いネクタイを締めたような模様がある。
- ・背中が黄緑色がかっている。

大きさ：スズメと同じくらい

生息環境：低地～亜高山帯の樹木のある所

繁殖場所：樹洞、石垣のすき間など

餌：昆虫、クモなど

鳴き声：「ツーピーツーピー」「チーチージュクジュク」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の林に生息し、市街地の庭や公園でも繁殖する。
- ・巣は樹洞、キツツキの古巣、石垣の穴などの中に造り、巣箱をもっともよく利用する鳥である。
- ・シジュウカラの仲間にはヒガラ、コガラ、ヤマガラなどがいて、非繁殖期には一緒に混群を形成する。この混群にはコゲラ、ゴジュウカラ、エナガ、キクイタダキなどさまざまな種が合流することが多い。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域に生息する。河川敷内には樹洞のあるような大木が少ないことから、橋などの構造物のすき間に営巣することが多いようである。秋から冬には、ハリエンジュの種子や、ヨシの茎内にいる虫をほじくり出して食べている。

天竜川上流における分布



メジロ *Zosterops japonica* (目白)

(撮影：山上)

識別のポイント ・ 頭から背中にかけてウグイス色で、目のまわりに白い模様がある。

大きさ：スズメより小さい

生息環境：低地～山地の樹木のある所

繁殖場所：樹林内の樹上

餌：昆虫、クモ、木の実、花の蜜など

鳴き声：「チーチー」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

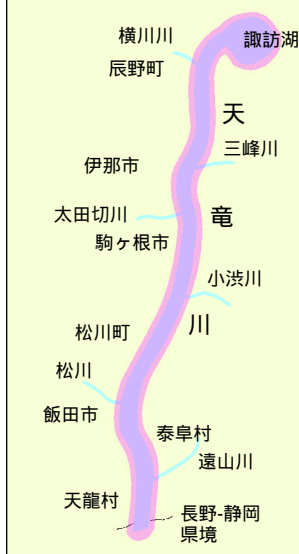
一般習性・分布

- ・ 留鳥として低地から山地の林に生息するが、樹木があれば住宅地や市街地の公園にも生息する。
- ・ 樹上にコケなどを織り交ぜておわん型の巣を造る。
- ・ 昆虫やクモを食べるが、甘いものも好きで、秋には熟した柿に集まり、春にはツバキ、ウメ、サクラなどの花の蜜を吸う。
- ・ 秋から冬には、カラ類の混群に合流することが多い。また、この時期、庭の餌台にリンゴなどの果物を置くとよく食べにくる。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で見られるが、繁殖期は平岡ダムから南宮大橋付近や吉瀬ダムなどの森林に接した区間以外ではあまり見られない。秋から冬にはカラ類の混群に合流し、各地で数多く見られる。

天竜川上流における分布



ホオジロ *Emberiza cioides* (頬白)

ヒナに与える餌を運ぶオス



こずえでさえざるオス



(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・顔が黒と白の縞模様になっている。
- ・尾が長めで、飛ぶと尾の両側の白い部分が目立つ。

大 き さ : スズメより大きい

生息環境 : 低地～山地の草原、河川敷、林縁

繁殖場所 : 低木の樹上、草の株の根元など

餌 : 草の種子、昆虫など

鳴 き 声 : 「チョッチーチョロリロ、チュロロリ」「チチッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分 : 留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として低地から山地の低木のある草原、農耕地付近、林縁、河原などに生息する。
- ・オスは、繁殖期には高い枝、電線、背の高い草の上、アンテナなどにとまり、胸を張ってさえざる。その声は、古くから「一筆啓上つかまつり候」などと聞きなされている。
- ・繁殖期には昆虫を多く食べ、秋から冬は植物の種子を地上でついばむことが多い。
- ・秋から冬は数羽の群れで行動することが多い。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域に生息する。木がまばらな草地に多いが、森林に接した区間でも林縁部でよく見られる。松川町鶴部の繁殖例では、シナダレスズメガヤ(イネ科の植物)の株中に営巣していた。また、別の地点では、堤防法面のコンクリートブロックの間から生えたヨモギの根元に営巣していた。

天竜川上流における分布



カシラダカ *Emberiza rustica* (頭高)

(撮影：山上)

識別のポイント ・ホオジロに似ているが頭の羽毛が黒く、立っている。

大きさ：スズメと同じくらい
 生息環境：低地～山地の草地、林縁
 繁殖場所：(日本では繁殖しない)
 餌：草の種子など
 鳴き声：「チッ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



渡り区分：冬鳥

一般習性・分布

- ・冬鳥として数多く渡来する。山地や低地の明るい林、林縁、耕作地、河原などにいる。
- ・地上で草の種子をとるが、ヤブの中にいることが多く、目に付きにくい。「チッ」と鳴き交わしながら少しずつ移動する。
- ・春にはヒバリのさえずりの声量を小さくしたような声で鳴く。これを一般に「ぐぜり」と呼んでいる。ぐぜりは、繁殖地へ向かう直前の鳥たちがさえずりの練習をしている場合が多く、越冬地での地味な行動と違った一面を見せてくれる。

天竜川上流における生息状況

冬鳥として全域で数多く見られる。秋の終わり頃、10数羽程度の群れが渡来し、3月頃まで見られる。ホオジロと一緒にいることも多い。

天竜川上流における分布



カワラヒワ *Carduelis sinica* (河原鶉)

識別のポイント

- ・全身が草色、黄土色、黄色、茶色などに見える。
- ・飛ぶと翼に黄色の帯が出る。

大きさ：スズメと同じくらい

生息環境：低地～山地

繁殖場所：樹上

餌：植物の種子

鳴き声：「キリキリコロコロ…ピーン」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥としてさまざまな環境に生息するが、非繁殖期には河原に集まることが多い。
- ・繁殖期には「キリキリコロコロ…ピーン」と軽やかな声で鳴く。非繁殖期にも「キリリ、コロロ」などと鳴く。
- ・庭木の枝や街路樹に、枯れ草やビニールひもなどを使って巣を造ることもある。
- ・四季を通して、キク科、イネ科、タデ科、マメ科などの植物の種子を食べる。河原はこれらの植物の宝庫であり、冬の餌の供給源として重要である。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域に数多く生息する。秋から冬には数10羽の群れで行動する。繁殖期が近付くとけんかが多くなり、地上で決着が付かないと、二羽が絡み合いながら垂直に飛び上がり、足で相手を蹴り合うという激しい争いをすることもある。

天竜川上流における分布



スズメ Passer montanus(雀)



幼鳥



識別のポイント

- ・頬に黒い斑がある。
- ・「チュン、チュン」と鳴く。

大きさ：全長約15cm

生息環境：市街地、集落

繁殖場所：人家の軒下、石垣のすき間など

餌：昆虫、植物の種子

鳴き声：「チュン、チュン」「ジジ…」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月

繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として人家とその周辺の農耕地、草地、河原に生息する。深い森林の奥には入らず、あくまで人間の生活に密着している鳥である。
- ・巣は人家の屋根、壁などのすき間、巣箱などに造る。
- ・夏の終わりから冬には数10羽の群れでいることが多い。秋には大きな群れが水田に集まって収穫前の米を食べるため、「お米を食べる害鳥」というイメージがつきまとうが、春から夏は水田害虫を含めた昆虫を主食としている。

天竜川上流における生息状況

留鳥として市街地や耕作地に接した地域に生息する。河川敷内で営巣していることはほとんどないと思われるが、橋の穴で営巣した例もある。繁殖期には、ヒナの餌となる昆虫類をとるために繁殖地と河原を往復し、秋から冬は群れになって一日中河原で採餌することもある。

天竜川上流における分布



コムクドリ *Sturnus philippensis*(小椋鳥)

識別のポイント

- ・オスは目の後ろのえんじ色と背中中の紫光沢が目立つ。メスは全身がベージュ色。
- ・オスは腰の白さが目立つ。

大きさ：スズメより大きい

生息環境：低地～山地の集落や明るい森林

繁殖場所：樹洞、人家の軒下など

餌：昆虫、クモ、木の実など

鳴き声：「キュル、キュル」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：夏鳥

一般習性・分布

- ・夏鳥として本州中部以北に渡来する。生息地は低地の人家周辺から山地の明るい森林などである。
- ・樹洞、構造物の屋根およびすき間、キツキの古巣などに営巣する。
- ・河原は重要な餌の供給地で、主にヤナギにつく昆虫類の幼虫を捕らえる。
- ・近縁のムクドリと比べると不公平に思えるほど姿、声とも美しい。さえずりは「チュチョイチョリユリュホーピーホービ…」など複雑で声量がある。木のこずえや人家の屋根の上でさえずる。

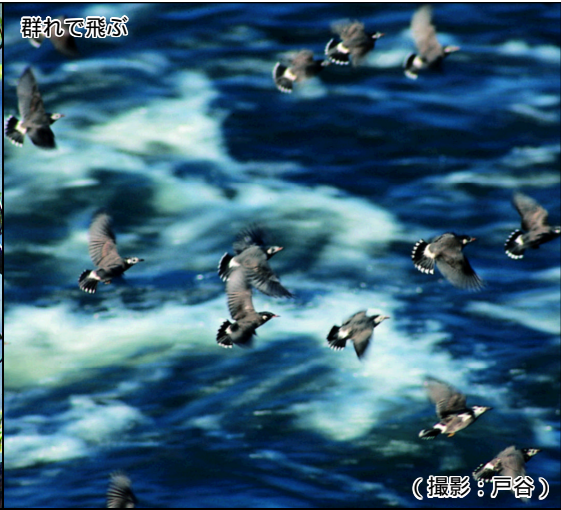
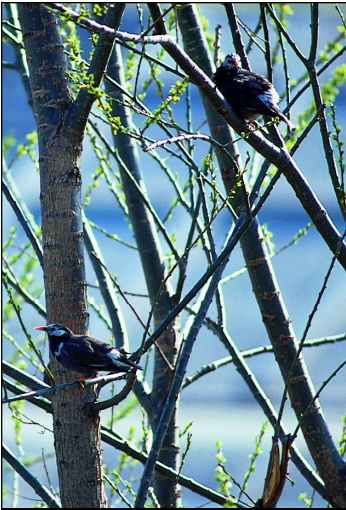
天竜川上流における生息状況

上伊那では多いが、下伊那ではあまり見られない。河川敷で繁殖している可能性は低い。箕輪町から辰野町にかけては、河川敷内のヤナギ林で餌を捕り、離れた場所の巣へ運んで行く姿がよく見られる。

天竜川上流における分布



ムクドリ *Sturnus cineraceus* (椋鳥)



群れで飛ぶ

(撮影：戸谷)

識別のポイント

- ・全身が黒っぽく、顔と腰が白く目立つ。
- ・くちばしと足がオレンジ色。
- ・「リャー」と鳴く。

大 き さ：ハトより小さい

生息環境：集落周辺や耕作地など

繁殖場所：樹洞、人家の軒下など

餌：昆虫、クモ、木の実など

鳴 き 声：「リャー」「キュルキュル」「ゲーィ」など

天竜川における生息時期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12月



繁殖期

渡り区分：留鳥

一般習性・分布

- ・留鳥として集落付近の林、公園、耕作地など、生息地はスズメと同様、人間の生活圏が多く、乾燥して開けた場所を好む。
- ・秋から冬に、ねぐら入り前の数千羽の群れが、夕刻の空を覆うように飛ぶ。それが街中に集まると、センセーショナルにマスコミにも取り上げられることがあるが、古くから農村などではなじみの風景であり、秋から冬の風物詩である。
- ・芝生、畑、河原などに降りて、または樹上で昆虫などを大量に食べる。反面、サクラ、カキ、リンゴなどの果実も食べ、しばしば果樹園に被害を与える。

天竜川上流における生息状況

留鳥として全域で見られるが、両岸を森林に被われた区間では少ない。繁殖期には、河川敷と繁殖地である住宅地を往復してせっせと餌を運んでいるのが見られる。

天竜川上流における分布

